

造血幹細胞老化における転写・エピゲノム制御機構の解明

1. 研究の対象

2001年4月以降に当院で自家末梢血幹細胞採取を受けられて凍結保存された末梢血幹細胞のうち、患者さんが死亡されて使用する予定のないもの。

2. 研究目的・方法

造血幹細胞とは通常は骨髄の中にある血液の元になる細胞です。本研究では老化に伴って造血幹細胞に起こる遺伝子変化を調べて、幹細胞老化の分子メカニズムを明らかにする事を目的としております。造血幹細胞は骨髄中、臍帯血中などに含まれますが、G-CSFという白血球造血因子を大量に投与すると末梢血にも動員されてくるため、これをアフエーシスという方法で濃縮して採取することを末梢血幹細胞採取と呼んでおります。この末梢血幹細胞は凍結保存が可能で、大量化学療法を受ける患者さんが前もって採取しておき、治療後に移植する事で血液の回復が得られます。この末梢血幹細胞の遺伝子の網羅的解析を行い、老化によって起こる遺伝子変化を調べます。

研究期間は2017年 月から2022年3月までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

凍結された自家（患者さんご自分のもの）末梢血幹細胞で、ご本人が死亡されていて使用予定のないものを研究用に転用させていただきます。採取時に研究用の転用に同意を頂いた方の細胞のみ使用致します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の提供者等の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんのご家族など代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 三村尚也

千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話：043-222-7171 内線 6386

研究責任者：千葉大学大学院医学研究院 細胞分子医学 岩間厚志